



令和4年度 果樹情報 第4号

(令和4年5月6日)

果樹の開花、防霜対策と病害虫防除対策
福島県農林水産部農業振興課



1 気象概況 (4月下旬、果樹研究所)

平均気温は、5半旬が16.2℃で平年より3.3℃高く、6半旬が13.6℃で平年より0.2℃低く経過しました。

この期間の降水量は43.5mmで平年比158%と平年よりかなり多く、日照時間は71.7時間で平年比96%と平年並でした。

2 土壌の水分状況

4月27日時点の土壌水分(pF値：果樹研究所なしほ場：草生・無かん水)は、深さ20cmで2.3、深さ40cmで2.0、深さ60cmでは1.8となっており、適湿状態です。

3 発育状況 (5月6日現在、果樹研究所)

(1) ぶどう「巨峰」の展葉は、4月22日で平年より2日早くなりました(表1)。

(2) りんごの満開は、「つがる」「ふじ」ともに4月25日とともに平年より5日早くなりました(表2)。

(3) おうとう「佐藤錦」の満開は、4月22日で平年より3日早くなりました(表2)。

(4) もも「あかつき」「ゆうぞら」、なし「幸水」「豊水」は幼果期に入っています。

表1 各樹種(品種)の発芽および展葉状況

樹種	品種	発芽観測日			展葉観測日		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
もも	あかつき	3月27日	3月24日	3月16日	—	—	—
	ゆうぞら	3月27日	3月25日	3月15日	—	—	—
なし	幸水	4月1日	4月1日	3月24日	4月9日	4月14日	3月21日
	豊水	3月29日	3月30日	3月20日	4月6日	4月10日	3月29日
りんご	つがる	3月29日	3月26日	3月17日	4月11日	4月8日	3月27日
	ふじ	3月30日	3月27日	3月21日	4月7日	4月7日	3月27日
おうとう	佐藤錦	3月31日	3月30日	3月24日	—	—	—
ぶどう	巨峰	4月13日	4月17日	4月7日	4月22日	4月24日	4月17日

注1) 平年は1991~2020年の平均値

注2) もも「あかつき」の調査樹は2022年より変更しています。

注3) ぶどう「巨峰」の調査樹は2021年より変更のため、平年は参考値

表2 各樹種(品種)の開花および満開状況

樹種	品種	開花観測日			満開観測日		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
もも	あかつき	4月10日	4月13日	3月30日	4月13日	4月19日	4月4日
	ゆうぞら	4月11日	4月14日	3月30日	4月13日	4月20日	4月4日
なし	幸水	4月14日	4月20日	4月7日	4月21日	4月25日	4月15日
	豊水	4月12日	4月16日	4月3日	4月18日	4月22日	4月10日
りんご	つがる	4月21日	4月25日	4月14日	4月25日	4月30日	4月20日
	ふじ	4月22日	4月26日	4月13日	4月25日	4月30日	4月19日
おうとう	佐藤錦	4月13日	4月18日	4月11日	4月22日	4月25日	4月20日

注1) 平年は1991~2020年の平均値

注2) もも「あかつき」の調査樹は2022年より変更しています。

4 栽培上の留意点

(1) 防霜対策

耐凍性は生育が進むにつれて低下し、開花期から幼果期にかけて最も弱く、凍霜害の危険性が高くなるので、気象情報に十分注意し、生育ステージごとの安全限界温度を下回る温度に遭遇するおそれがある場合には速やかに防霜対策を実施しましょう。

事前対策として、防霜資材の準備を徹底するとともに、地温の上昇を図るため下草は5 cm 程度に刈り込みましょう。また、乾燥条件は気温の低下が著しいため、空気や土壌が乾燥している場合は適宜かん水を実施し、土壌水分を確保しましょう。

各樹種の生育ステージ別安全限界温度は、農業振興課ホームページの技術資料を参照してください。

「作物別凍霜害及びひょう害技術対策（令和4年3月15日）」

URL <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/nogyo-nousin-gijyutu03.html#kisyou>

なお、凍霜害がみられた場合には、被害状況を確認の上、摘果は各品目とも結実や生理落果が明らかになってから実施しましょう。

(2) もも

摘らいや摘花を実施しなかった場合や摘らい程度が弱く着果数が多い園地では、結実が確認でき次第、予備摘果を実施しましょう。なお、品種により着果量が少ない場合は予備摘果を省略し、仕上げ摘果から作業を行いましょう。

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病害

ア リンゴ黒星病

会津地域研究所では、罹病落葉からの子のう胞子の飛散が既に確認されています。本病の重要な防除時期は開花期前後のため、昨年本病の発生が認められた場合は、落花直後に本病に有効なDMI剤（県病虫害防除指針参照）を使用して被害防止に努めましょう。

イ リンゴ褐斑病

例年本病の発生が多い場合には、落花直後にデランフロアブル 2,000 倍を使用しましょう。

ウ モモうどんこ病

例年本病（「毛じヤケ」を含む）の発生が多い場合には、落花 10 日後ごろにトリフミン水和剤 1,500 倍を使用しましょう。

エ モモせん孔細菌病

本病は発生初期の密度抑制が重要なため、定期的にはほ場を巡回し、伝染源である春型枝病斑の早期発見とせん除を徹底し、感染防止を図りましょう。なお、春型枝病斑のせん除は、発病部位が残らないように病斑部の周辺を含めて可能な限り基部から切り戻しましょう（図1）。また、樹冠上部での発生を見逃さないように注意し、直下への被害拡大を防止しましょう。

薬剤防除は、落花 10 日後に本病防除剤を使用し、被害防止に努めましょう。落花 10 日後に銅水和剤（クプロシールド）を使用する際は、薬害の発生を軽減するため、炭酸カルシウム水和剤（クレフノン 100 倍）を、必ずバケツ等で一次希釈を十分に行ってから加用しましょう。また、薬剤が沈殿しないように攪拌しながら散布を行いましょう。高温時の使用や連用は、薬害が発生しやすくなるおそれがあるため避けましょう。

春型枝病斑の発生は長期間にわたるため、せん除は定期的に複数回実施しましょう。

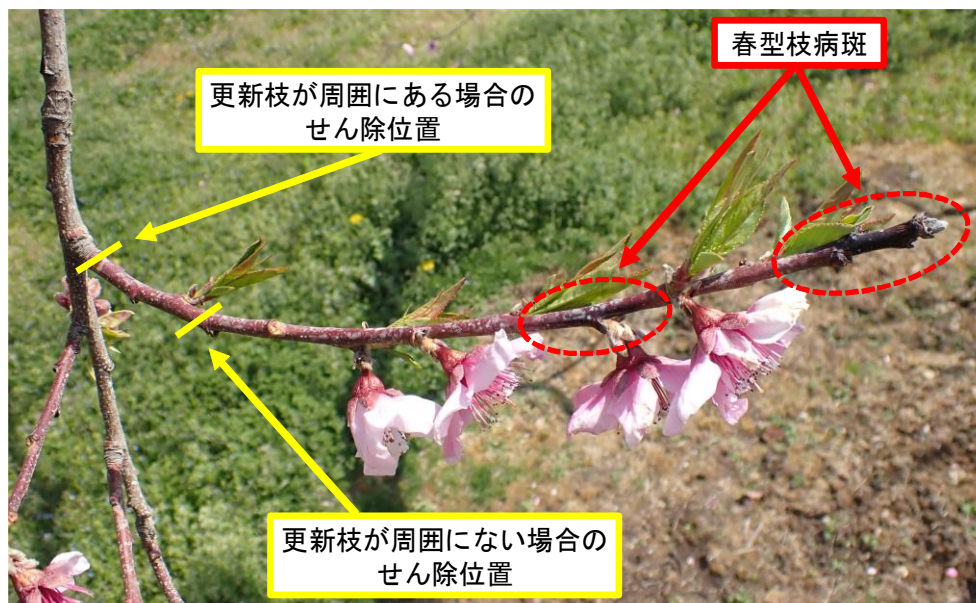


図1 春型枝病斑のせん除位置

オ ナシ黒星病

果そう基部に発病している場合は、鱗片が脱落せずに付着しているため、見つけ次第除去して適切に処分しましょう（図2）。

また、落花1週間後以降の薬剤散布は、1週間間隔で実施し、病原菌の初期密度の低減を図りましょう。



図2 ナシ黒星病の果そう基部（芽基部）病斑の発見の目安

(2) 虫害

ア モモハモグリガ

モモハモグリガ越冬世代成虫の発生盛期は4月3半旬ごろ、第1世代幼虫の防除適期は4月5半旬ごろと推定されます（表3）。ミツバチ等を導入している園地では、巣箱回収後に速やかに防除を行いましょう。

イ リンゴモンハマキ

リンゴモンハマキの越冬世代の発生盛期は気温が2℃高く推移した場合には、5月2半旬ごろと予測され、第1世代幼虫の防除適期は5月5半旬ごろと推定されます（表3）。リンゴコカクモンハマキもこれに準じるものと考えられます。

ウ カメムシ類

越冬世代成虫による被害は幼果の段階から発生する場合があります。山間部や山沿いの園地では、カメムシ類の飛来状況をよく観察し、集団的な飛来を確認した場合には速やかに防除を行いましょう。

表3 果樹研究所における防除時期の推定（令和4年4月28日現在）

今後の気温予測	モモハモグリガ		リンゴモンハマキ	
	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期
2℃高い	4月13日	4月22日	5月9日	5月24日
平年並	4月13日	4月22日	5月13日	5月29日
2℃低い	4月13日	4月22日	5月18日	6月6日

起算日：3月1日（演算方法は三角法）

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 農業革新担当 TEL 024(521)7344

（以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。）

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>